

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

にちようびの森～森で育つ子どもたち

北海道帯広市



事業概要

地域の公共財としての帯広の森に子どもたちが足を運び、森づくりや自然観察、体験活動などを通じ、森への興味関心や愛着を育む。主な活動: 森の手入れ(草刈り、外来種除去、ツル切りなど)、馬搬(間伐材の搬出)、木こり体験、ネイチャーゲーム、シイタケの植菌体験ほか。子どもたちが森づくりの体験を通じ、自然に興味関心を持ち、森が多世代の交流スペースになるような活動を行った。

事業成果

隔月の活動にとどまらず、当該事業実施の他にも親子で森に足を運び、あそびや交流ができる活動がスタートした。毎月定期的な活動を行うため、森の景観が一層整備されているほか森が市民にとって身近な場所として定着してきた。また、コロナ禍で比較的安心して集える森づくり活動では、森は子どもたちが心豊かにたくましく育つための大切な場

所となっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・3年間共に森づくりを行ってきて、安心して子どもが訪れることのできる森になったと感じている。大きな間伐作業も一区切りつき、これからもこの環境を維持する活動を継続していき、森づくりのノウハウが会員に蓄積していくことを期待している。(帯広の森・はぐくむ)

参加者の声

- ・馬の背中にとったらあたたかかった。馬が荷物を運んでいるところがかっこよかった。虫のトラップにクワガタとかカブトムシがいなくて残念だったけど楽しかった。(小学2年)
- ・人見知りの娘が、植物のことを教えてくれるお兄さんの話を聞いて楽しそうでした。また来たい。(保護者)



間伐材を馬搬



シイタケの植菌



薪割り



救命救急講習会

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
 除伐面積：4ha
 間伐面積：1ha
 馬による搬出：0.5ha
 ツル切り：0.1ha
 道づくり：50m

参加者数

道内：856人
 計：856人

子どもと馬を中心にしたコミュニティによる里山整備及び森林環境教育推進事業

北海道苫小牧市



事業概要

地域の小学生とともに、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業を通じた活動を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築をめざす。そのために、かつて「森のようちえん」に参加していた小学生を対象に行っている放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての「森っこアフタースクール」参加者をボランティアとして募集し活動に協力してもらった。土日を活用し、保護者も参加できるイベント「森っこホリデー」を実施した。

事業成果

参加者が安定して増えてくるようになったと同時に、保護者や元保護者の参加が増えてきた。また、他地域の園や自治体の地域おこし協力隊が研修として訪れるようになり、活動が広がりをもってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林を所有する園として、専門家や元卒園した後の子どもや保護者が手入れをしてくれることは本当に有意義であり、ありがたく思っている。森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。(ひかりの国幼稚園園長)

参加者の声

- ・OBとして関わっていることにうれしさを感じている。より主体的で専門性の高い活動提供や技術習得ができた(大学生ボランティア)
- ・自分の子ども達が育った園の森で、今度は私自身の自己実現ができる場と機会になっているような気がする。自分の子ども達と過ごした頃を思い出しながら、その頃やりたかった活動を今の子達や保護者の方とできることに意味を感じている。(元保護者)



高校生と小学生による森林整備



馬搬



薪割り



親子イベントに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：6ha
 親子イベント：8回

参加者数
 道内：60人
 計：60人

ふるさとの森・遊びの森作り事業

北海道恵庭市



事業概要

失われていく自然環境の保護と、自然の中の厳しさや五感を生かした保育の充実を主として活動を行う。主な活動は、市内幼稚園、保育園、こども園の自然体験活動の利用、市内学童の放課後育成事業における自然体験、市民への自由開放を行う。

事業成果

市内幼稚園の自然体験のカリキュラムは継続して行われている。また、以前は3～5歳の幼児期が多かったが、2～3歳の低年齢層でも森の中で散歩をするなどの活動を取り入れることができています。また、市内の学童クラブの放課後の活動も増え、キャンプや川遊びの体験を行うことが

できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林における環境学習を行うことで、子どもののびのびとした成長と、自信をもって様々なことにチャレンジできるようになった。(保護者)
- ・広いフィールドを使って、子どもたちののびのびとした体験ができることが贅沢なことだと思う。安心して使える森があることが良い。(幼稚園教職員)

参加者の声

- ・子どもが自然の中で遊べる環境が身近にあって良かった。(保護者)



幅が広がってきた自然体験カリキュラム



楽しみながら森や木を学ぶ



薪割り体験



炭づくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1ha
 間伐面積：0.3ha
 教育キャンプ：2回
 野外活動：28回

参加者数

道内：32人
 計：32人

こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト

青森県むつ市



事業概要

青い森が県名の由来である緑豊かな地域に生まれ育った子どもたちと未来に向けた森を育て、森の大切さを伝えていく。主な活動は以下のとおり。①伐採後に再造林されていない森林の地拵え、②地元の木、青森県及びむつ市の指定木「ヒバ」の植栽、③SDGsの森と海の豊かさを守る落葉樹「ブナ」の植栽（県及び市との連携）、④子どもたちによる植樹体験（地元小学校及びクラブチームとの連携）、⑤子どもたちへ森の大切さを伝えるための森林教室及び林業機械見学と丸太切り体験（森林組合との連携）。

事業成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により一般の子どもたちの募集はできなかったものの感染対策を徹底しながら、人数を限定し、2団体との植樹活動ができた。森林教室では、成長盛りの若い木が二酸化炭素をよく吸収することを学び、子どもたちにも植樹の大切さを伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林の中で行う森林教室は、教室での学習より子どもたちの目がキラキラしていた。山・川・海をつなぐ水によって豊かな海産物が育まれていることや、森林は二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防いでいることなど、森林の働きを学ぶ良い機会となる。（小学校教員）
- ・コロナ禍では難しいが、木工作ブースや飲食ブースなど親子で楽しめる企画を盛り込むことで参加者を増やすことができるのではないかと。（参加クラブ担当者）

参加者の声

- ・落ち葉がないと海や川がよごれるのがわかったし、絵もあってわかりやすかった。（小学生女子）
- ・林業機械が木をつかめて、のこぎりみたいなもので木をきったのを初めて見た。はやかったし、あまり音がしなかったので、最新の機械のすごさを感じた。（小学生男子）



植樹の準備



ヒバ、ブナを植樹



林業機械見学



森林教室

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：500本
 地拵え：0.2ha
 支柱設置：500本
 イベント：4回

参加者数

県内：130人
 計：130人

樹種

ヒバ、ブナ

SDGs キッズ海岸防災未来の森づくり事業

宮城県仙台市、七ヶ浜町



事業概要

東日本大震災で失われた広大な海岸防災林を継続的に再生していくため、未来を担う子どもたちに関わってもらい、海岸防災林を自分たちのものという意識を持ってもらうこと。また、新型コロナ禍で思い切り自然体験ができていない子ども達に、海岸防災林や海岸の開放空間でのびのびと活動してもらいたいという意識もあった。そのため、小学生から高校生までの幅広い世代に、海岸防災林の植樹や保育、海岸清掃、運河での釣り活動等を体験してもらい、海岸防災林での楽しい思い出をつくり、海岸防災林を自分たちで育てていくという意識を芽生えさせた。

事業成果

再生してきた海岸防災林も、ほぼ植樹が完了し、社会の意識も薄れてきている。そこで、宮城県や市町村とも相談し、小学生や高校生、親子等を積極的に海岸防災林に招待して楽しく活動してもらい、そのすばらしさを伝える事業

を行うことになった。本事業を実施し、たくさん子ども達の海岸防災林での活動事例(モデル)をつくったことにより、子ども達も関わりながら海岸防災林を再生していくという機運が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子ども達が海岸防災林で活動する機会をつくっているすばらしい事業だ。(県水産林政部森林整備課)
- ・七ヶ浜町の復興のためにたくさん子ども達が来て、元氣と勇気をもらった。(七ヶ浜町菖蒲田浜地区会ほか)

参加者の声

- ・ツル取りが楽しかった。マツ林がきれいになって良かった。(小学3年男子)
- ・自分たちだけでは来られないので、子どもたちに貴重な体験をさせていただいた。(放課後子どもクラブ職員)
- ・国や県はもっと責任を持って整備してほしい。(ボランティア)



抵抗性クロマツほかを補植



海岸防災林に生き残っている希少な広葉樹の保育作業



除草



参加親子に海岸防災林について説明

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：140本
 樹勢回復：980本
 下刈面積：4.3ha
 除伐面積：1.5ha
 施肥：150本

参加者数

県内：918人
 県外：1人
 計：919人

樹種

抵抗性クロマツ

子供たちへ繋ぐ森林の風

秋田県北秋田市



事業概要

身近にある里山をフィールドとして、幅広い世代による体験活動を通して地域の豊かな自然を大人から子どもに伝えるとともに、緑あふれるふるさとへの郷土愛を育む幼少期の原体験とする。主な活動は、①秋田スギ伐採跡地にブナなど地域に自生する広葉樹の植栽体験とこれまで植栽した広葉樹の手入れ、②巣箱づくりと小鳥の観察会を3回に分けて実施した。応募者は年々増加している。

事業成果

事業開始から3年目となる今年は、地域外からの参加者に加え地元北秋田管内の保育園や幼稚園の協力も得られ、

イベントとして完全に定着した。また、植樹や巣箱かけの面積がある程度の広がりを持ち、子どもたちが安心して遊び、学べる「森」の基礎できあがった。

事業をよく知る関係者の声

- ・3年間参加してくれた親子が多いので木の種類の学習会も企画してはどうだろうか。(市会議員)

参加者の声

- ・これからも親子での参加できる植樹や樹木の手入れもしたい。(親子参加者)
- ・苗木が育っていることを確かめる観察会もお願いしたい。(70代女性)



植樹地を整備



ブナ、ナラ、クリを植樹



巣箱かけ



植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：330本
 樹勢回復：50本
 下刈面積：0.5ha
 巣箱づくり：33個
 看板設置：1基

参加者数

県内：80人
 計：80人

樹種

ブナ、ナラ、クリ

高島町天神山の遊歩道等の改修及び植樹事業

山形県高島町



事業概要

地区民の憩いの場である天神山は、ここ数年の豪雨により遊歩道を兼ねた石段等に危険な箇所が見られるようになったり、すり鉢状になったりしている。そこで、遊歩道の改修並びに新たにソメイヨシノ植樹を行い、地区の老若男女、近くの高島中学校生徒、及び通行人が気軽に利用しやすくする。実施内容は、①遊歩道整備、②大径木伐採、③地区民・地区内子どもや高島中学生によるサクラ植樹、施肥活動、④地区民による環境整備活動。

事業成果

天神山北側の耕作中止していた土地の所有者が、荒れたままにしておけないと、アーモンドを数十本植樹した。中学生が花見に来た後日、その保護者が子どもから良いところだと聞いて花見に来た。「とてもきれいですね」と楽しんで

ていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・開校以来毎年花見をさせていただいている天神山の植樹、環境整備に参加できたことは、生徒にとって有意義であった。地域の方の長年にわたる作業によって、サクラが楽しめることを学ぶとともに、今後も環境整備作業に参加して、中学生が地域に役立つ活動を創造していきたい。(教員)

参加者の声

- ・サクラを見に来て、俳句を詠んできた天神山の植樹作業に参加できて良かった。今後も地域のためにがんばりたい。(中学生)
- ・今年も何か植えるのかなと楽しみにきた。(小学生)



下刈



支障木の伐採



サクラの植樹



中学生たちの花見

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本
下刈面積：0.36ha
遊歩道整備：40m

参加者数

県内：109人
計：109人

樹種

サクラ

ふるさとの風景づくり植樹祭

福島県矢祭町



事業概要

未来の子どもが自慢できるふるさとの風景づくり（地域の風景をデザインする）。主な活動は以下のとおり。荒れ果てた耕作放棄地を地域の方々と協働で整地して、福島復興支援を兼ねて、原発事故により大きな影響を受けた富岡町の夜ノ森桜等を地域の子どもたちの協力を得ながら地域の方々とともに植栽する。

事業成果

福島県が緊急事態宣言を発出したことにより、子どもたちの参加を見送らざるを得なかった。そうした状況にあっ

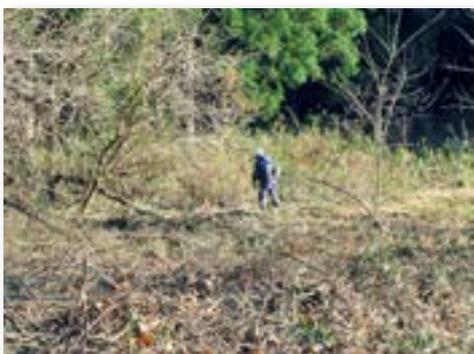
たが、土地所有者のみならず地域の多くの方に参加いただいたこと、活動エリアをさらに拡大してほしいとの要望が出されるなど、これまでの活動の成果が見えてきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・荒れていた耕作放棄地がきれいに整理されてきたことはすばらしい。さらに広げていってほしい。（農業関係者）

参加者の声

- ・4年間やってきて成果が見えるようになってきた。やってきて良かった。（地元参加者）



植樹地の整備



支障木の伐採



サクラ、カエデを植樹



植樹祭参加のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：75本
 下刈面積：3ha
 地拵え等：0.3ha

参加者数

県内：89人
 県外：6人
 計：95人

樹種

サクラ、カエデ

ふるさとの森を守ろう

茨城県筑西市



事業概要

残された里山(森)を子どもたちの自然体験の場、環境教育の場として活用し、次世代に引き継ぐべく保全する。主な活動は以下のとおり。①小学生が授業の一環として参加し、里山の保全を共同で行う(コロナ禍で中止)、②「ふるさとの森を守ろう」(小学生、一般)(コロナ禍で中止)、③会員のみで間伐材にシイタケ植菌を行う、④小学生、一般参加による植物観察会、⑤月1回の定例作業。

事業成果

コロナが収束せず、予定された事業が実施できなかった。しかし、会員による間伐、間伐材の有効利用が行われた。5月には小学生や一般の方々の参加で春の植物観察会を実施

した。コロナ禍ではあったが、密になりにくい場所として、次第に来訪者が増えてきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・市広報、当ホームページのイベント案内により、予想を上回る子どもたちの応募があった。うっ積した思いを里山の自然で発散させたいという思いがあったのではないか。

参加者の声

- ・植物観察会に参加した親子からは、密になりにくい自然の中で参加でき、久しぶりに楽しい思い出となったとの感想があった。



自然観察会



身近な里山を楽しく学ぶ



山菜を味わう



シイタケの植菌

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2ha
 間伐面積：1.5ha
 植物観察会：1回
 シイタケ植菌：100本

参加者数

県内：189人
 計：189人

子どもたち参加の里山体験活動

茨城県古河市



事業概要

稲宮の森は、地元住民の生活（燃料・肥料）等に貢献していた。しかし、生活環境の変化から放置され、産業廃棄物の不法投棄が著しく、地元住民から「ごみ山」と称され景観や樹勢環境が著しく悪化していた。この森を再生するため当会を結成、その目的は、多くの市民が身近な自然環境（里山）に関心を抱き、ふるさとの里山を守る機運を醸成するため、市民が里山に関心を高めるよう子どもたち参加の里山体験活動を行う。

事業成果

児童の家庭などでの会話により近隣住民に里山が話題が

広がり、里山の関心が高まってきた。市民の散歩コースにもなってきた。身近な里山に触れあうことにより自然環境（里山）保全の啓発につながってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・会員高齢化により継続した里山整備には、若手会員の加入を促進したい。現在、企業の森づくりに加入している社員の参加者数は増加している。

参加者の声

- ・近隣住民から「ごみ山」と称されてきた里山が保全整備され、植樹されたサクラも400本となり見事な花山になっている。



里山の立ち枯れ木や倒木の調査活動



里山の恵み体験（サツマイモ掘り）



シイタケ植菌体験



植物観察

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：10ha
 除伐面積：5ha
 間伐面積：0.5ha

参加者数
 県内：23人
 計：23人

みんなで作るみんなの森プロジェクト

栃木県那須塩原市



事業概要

生物多様性に富んだ森林を再生するため、荒廃林となっている保育園の園庭林を活用して、子ども達が森林の役割や整備の必要性を学びながら、すこやかに成長することをめざす。主な活動内容は以下のとおり。全5回ワークショップ形式で開催する。第1回下刈、第2回下刈とデッキ製作補助、第3回下刈とデッキ製作補助、第4回下刈と間伐体験、第5回森の観察会。

事業成果

整備面積を拡大し整備を進めた。しかし、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加者が少なく計画通り進めることが難しい状況であった。ツリーハウス製作も断念せざるを得なくなり、急遽、間伐材を利用したデッキ製作に変更した。しかし、最後の森の観察会には多くの方に参加し

ていただけた。荒廃していた森林は光の差す森となり、どングりからは新芽が顔を出し、参加者達の環境への感心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・この那須野ヶ原は良質の土壌で環境が整っているため、多種多様な植物等が見られる。しかし、この里山も手をかけなければ、自然循環も崩壊してしまう。ワークショップを通して子ども達に学びの場を提供する活動はとても重要だ。(講師)

参加者の声

- ・子ども達にとっても森の園庭はとても良い体験ができる活動場所になった。この森の維持管理を続けることが大切だと思う。(30代女性 保護者)



森林整備



自然観察会



間伐体験



トチノキを記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
下刈面積：0.5ha
間伐面積：0.1ha

参加者数

県内：64人
計：64人

樹種

トチノキ

石原里山整備で感性豊かな子どもの育成事業

群馬県渋川市



事業概要

伐採されたスギ山を活用して、地域の子どものための散策道や遊びの場を設け、植樹体験で緑の大切さを学び、山林保全と地域の交流を図る。実施した内容は、伐採木を搬出、切り株を整理して散策道、昆虫ゾーン、木材を生かした遊具を設置、植樹祭を開催。参加者は森林とふれあい、水やりで苗木の成長を見守ることで樹木の大変さを学んだ。

事業成果

子どもたちが森林の大切さや友だちや地域の人と苗木を植えることで植樹の喜び、楽しさを学び、味わうことができた。参加できない幼児たちも里山の下方から見学することで良い勉強になった。

事業をよく知る関係者の声

・山を守り続けていくという意識を園児や保護者、近隣の

参加者の中に、みんなで植林する映像として残せたのではないかと。「石原里山こども広場」をつくったことは子どもが大人になったときにも思い出として残ることだろう。(公民館長)

・傾斜を活かした里山広場づくりをめざすとともに、生物多様性のなど森林の様々な働きへの理解が深まった。(元教員)

参加者の声

・トネリコにはカブトムシが寄ってくるのか。虫が大好きな子どもたち、うれしいだろうなあと思いながら植えた。(保護者30代女性)

・穴を掘って植えるのと水やりが楽しかった。(園児)

・山の上の方へ登ったらカニがたくさんいて驚いた。植樹でさらに虫がいっぱい来る未来の豊かな環境が想像できた。(保護者30代男性)



散策道を整備



子どもたちが植樹



サツキ、トネリコ、サクラほかを植樹



植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：20本
 下刈面積：0.1ha
 除伐面積：5本
 地拵・整地：0.1ha
 散策道：100m
 丸太遊具設置：1か所

参加者数

県内：105人
 計：105人

樹種

サツキ、トネリコ、サクラ、
 ヤナギ、ミカン

みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト

埼玉県吉見町



事業概要

手入れ不足で荒廃した里山の保全とその活用を、地域住民や都市住民の参加により行う森づくりを通じた森林ESD活動を行う。主な活動は以下のとおり。①活動目的の説明とレクチャー、②自生樹木の観察、③落ち葉溜めづくり、④保全活動(落ち葉かき、更新のための伐採)、⑤ホダ木づくり・シイタケ植菌、⑤植樹、⑥樹幹ロープによる綱渡りなどの森の遊び、⑦バイオマストイレの活用と運用。

事業成果

太陽光発電設備の開発工事が始まり、状況が落ち着くまで集客活動は見合わせた。工事完了後、景観は大きく変化。このため、境界域に日陰をつくる植樹を行い自然環境の変

化に対応した環境整備を行った。しかし、反射光や風向きの変化などにより環境悪化が見込まれ、樹木の枯れや植生の変化への対応が今後の課題である。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山活動を体験した子どもの表情がイキイキしていた。(県環境アドバイザー)

参加者の声

- ・普段経験できないことを子どもと体験ができて良かった。(親子参加者)
- ・2年前に植菌したシイタケを収穫することができた。(親子参加者)



落ち葉かき



ノコギリ体験



シイタケ植菌



スダジイ、クワほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：39本
間伐面積：0.2ha
シイタケ植菌：2回
森の遊び：1回
落ち葉かき：1ha

参加者数

県内：98人
県外：19人
計：117人

樹種

スダジイ、クワ、サクランボ、ミカンほか

「森のがっこう」里山再生と木の活用事業

千葉県千葉市



事業概要

小中学生のための森林環境教育を行う。主な活動は以下のとおり。①季節や樹々の成長に応じた里山の手入れを専門家から学び、参加者と共に行う（下刈、ツル切り、植樹等）、②伐って、作って、使うという間伐材の活用を通し、森林循環サイクルについて学ぶ、③子どもたちが体験を通して、自ら考え行動に移せるような環境保全の周知啓発イベントを行う。

事業成果

活動5年目を迎え、低学年の頃から活動にかかわってきた参加者は、下刈やツル切りの仕方、ノコギリの使い方などを新規参加者に伝授する姿も見られた。3月の植樹では「密植」という新しい植え方も教わり、新たな知識を得ることもできた。これまで森の間伐材で作ったものを、各参加者が生活の中でどのように取り入れて使っているかを言葉と写真で振り返る機会を設けた。

事業をよく知る関係者の声

- ・回を重ねるごとに子どもたちがより積極的に取り組むようになり、また他の参加者たちともコミュニケーションがとれるようになってきている。（講師）
- ・最終回に「森（木）の役割は?」「木を切るのは良いこと?悪いこと?」と参加者皆で意見を交わせる場があったのは大変良かった。この体験を通し、適切に人間が森に関わり必要に応じて伐採したり、その木を活用したりしていく大切さを学んでいることがうかがえた。（小学校教員）
- ・森（木）と土の関係や、森（木）と水との関係をもっと学べる機会があると、環境問題について視野が広がり、学びが深まるように感じる。（サポートスタッフ）

参加者の声

- ・これからも元気な森を守っていくために、自分たちができることをすすんでやりたい。（女子）



コナラ、クヌギ、ガマズミほかを植樹



落ち葉かき



巣箱づくり



ノコギリ体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
 植付本数：38本
 下刈面積：0.28ha
 除伐面積：0.07ha
 間伐面積：0.02ha
 巣箱づくり：1回

参加者数

県内：519人
 県外：44人
 計：563人

樹種

コナラ、クヌギ、ガマズミ、
 ミズキ、ゴンズイ、ヤマボウシほか

歴史ある学びの森で、地元の小学生へ体験学習

東京都八王子市



事業概要

聖パウロ学園高校の学校林であるパウロの森をフィールドにした体験学習で、地元の子どもたちが森の役割や自然の大切さなどを学び、それに相応しい安全な森づくりに継続的に取り組む。具体的には、パウロの森くらぶが森を整備し、恩方第1小学校・恩方第2小学校児童に対し下記4回の森林学習プログラムを企画・実施する。1年生「葉っぱのお絵かきと植樹」、2年生「落ち葉や木の実で作ろうクラフト」、3年生「森の探検隊」、4年生「間伐・玉切り体験」。

事業成果

今年は4年生も自分たちが植樹した成果を実際に見ることができた。1～2年生は「遠足」としても実施しており、子

どもたちの喜びが大きい。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然に囲まれた地域だが、きちんとその自然を学ぶ機会はなかなかない。短い時間の中、子どもたちの興味を引き出し、楽しい時間をつくっていただき感謝している。熟練した運営もすばらしいと感じた。(副校長)

参加者の声

- ・パウロの森は新しい経験ができ、とても楽しいのでまた来たい。(子どもたち)
- ・子どもたちの笑顔が楽しみで毎年すすんで関わりたい。予備日の設定が大変きついが、補って余りある体験となっている。(スタッフ)



ヤマボウシを植樹(1年生)



葉っぱでクラフト(2年生)



自然観察(3年生)



間伐材の玉切り(4年生)

実績とりまとめ

作業内容

体験授業：4回
森の整備：毎月2回

参加者数

都内：38人
都外：13人
計：51人

災害に強い子どもたちが育つ森づくり事業

東京都日の出町



事業概要

子どもたちが森づくりを楽しめるものとして感じ、参加者が森の歴史を学ぶことのできる活動である。①学びの森にする。1986年の西多摩大雪害の後、放置されたままの状態であったこと、また2019年の台風被害が甚大であった歴史から、森の役割と地域の森の状態を学ぶ。②遊びの森にする。森で遊ぶことによって、森を普段の生活に近づける。③災害を生き抜くための訓練の森にする。災害が起きた際、どう生き延びるかを自ら考え、行動できるようにするための体験の森にしていく。

事業成果

歩きやすい道をつくり山に入りやすい環境を整えた。その道を利用し、地域の中学生が山に入るようになった。また、山火事の際の消防団の苦労話も聞くことができた。継

続して山を知ってもらおう企画をしていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・地元の中学校の生徒や保護者でも、山の中での作業経験がなく、その感想は参加して良かった、との声があった。雪害や水害を振り返ることで、森林整備の大切さ、森林の役割を知ってもらう機会をもっと設け、働きかけをしていこうと思う。

参加者の声

- ・昔の大雪災害の話や台風19号の被害など、山の整備が大事だと知った。(中学生)
- ・短時間でも作業をすることで山がきれいになり、生徒も楽しんでいただけた。(保護者)
- ・安全に進められ、「また作業したい」と言ってもらえて良かった。(講師)



作業現場に向かう



作業についての説明



伐採のための選木



伐採後

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.3ha
作業道整備

参加者数
都内：50人
都外：30人
計：80人

故郷の里山再生および園芸文化の復活プロジェクト

新潟県三条市



事業概要

荒れた里山を整備し、かつて緑化造園木の生産地であった頃の姿を取り戻し、地元住民および一般外来客が散策できるような環境を創出し、地域の活性化に貢献すると共に三条市の観光資源の一翼たらしめる。主な活動は以下のとおり。①はびこっているモウソウチクの伐採。②豪雪によって折れたり倒れたりした支障木の伐採、撤去、集積。③生産地であった頃の情景を創出することを前提に支障木の伐採、撤去、集積。④遊歩道からの景観を楽しめるよう情景を塞ぐ樹木を撤去し休息スペースをつくる。⑤低地から見上げても作業成果がわかるレベルの整備をめざす。

事業成果

これまでより奥のエリアで伐採作業を行った。車両が入れないエリアなので、谷に倒れた木は上の遊歩道からロープで引きあげたり、巨木は現場に集積することになった。これらにより景観もかなり良くなった。ほぼ予定どおりの結

果を得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・高木を除間伐することで地表面への日当たりが良くなり、新たな植生が生まれると思うので、下刈などを継続していくことが望まれる。すでに整備区画にヤマユリが随所に見られるようになった。(保内公園当初設計参加者)
- ・子どもたちが自然環境に親しめる環境づくりに参加し、緑に親しむ心を醸成するのは大変良い取り組みことだと思う。(小学校教員)

参加者の声

- ・地元の人はずっと大勢参加して現状を認識すべきだ。何十年も放置されるとこんなに荒れるのだということ。(70代男性)
- ・ただ伐るだけではもったいないので、掘り取って造園に使わせてほしい。(30代男性)



森林整備



支障木の伐採



下刈



サンシュユを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：4本
下刈面積：0.7ha
除伐面積：0.9ha
間伐面積：0.4ha
緑の教室：2回

参加者数

県内：151人
計：151人

樹種

サンシュユ

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県小松市、輪島市



事業概要

第66回全国植樹祭は2015年5月に石川県で開催され、式典参加者による記念植樹が小松市の「憩いの森」で行われた。植樹された樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要といえる。地域のシンボルとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。

また、輪島市金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景を留める棚田維持に不可欠な用水用溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。特に、この地区は歴史的資源が残されており、世界農業遺産「能登の里山里海」の一翼を担うべく地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。主な活動は以下のとおり。

「憩いの森」①植樹区域の下刈、②植樹区域に隣接する法面の雑木伐採により、ハイキングコースの景観改善。

「金蔵の里山保全」①金蔵山の休憩用東屋周辺の下刈、②集落に隣接する里山で学童による植樹体験区域の整備。

事業成果

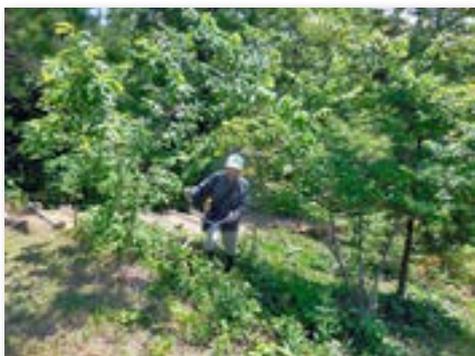
金蔵の里山保全活動は、新型コロナウイルスの影響でやむなく日帰りの活動となった。地元住民及び能登地区の会員の参加を得て、今後の活動実行のための確実な一歩を踏み出すことができた。また、新規入会メンバーに対してベテラン会員が安全指導等を行うことで、安全な作業につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

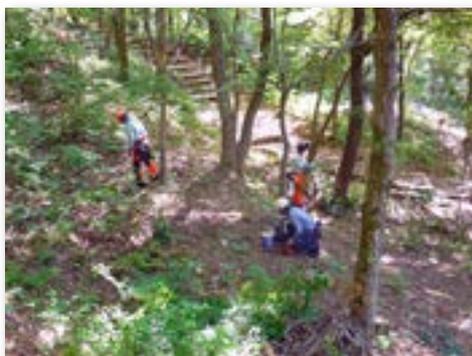
- ・憩いの森では、一昨年行った地域の学童による森林整備の見学会が好評だったので、継続しての実施が希望された。(憩いの森管理事務所員)

参加者の声

- ・金蔵について、地元住民の参加者が会の活動を高く評価し、会に加入することとなった。(地元住民)



下刈 (憩いの森)



間伐 (憩いの森)



下刈 (金蔵地区)



除伐 (金蔵地区)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：20本
下刈面積：5.4ha
間伐面積：0.2ha

参加者数

県内：116人
計：116人

鬼無里で「みんなの森づくり」プロジェクト

長野県長野市



事業概要

担い手不足で荒廃がすすむ山林を子どものための森あそびなど多面的に活用できる森に再生するため、森林ボランティア「鬼森隊」を育成・組織化する。主な活動は以下のとおり。①森林ボランティア養成のためのチェーンソー安全講習会1回。②チェーンソー練習会2回。③森林整備実践会を1回、支障木の伐木、枝払い、玉切り、搬出を行った。④子どもたちと秋の森観察会。⑤オーストリアの森を学ぶセミナー、オーストリアでの森と人とのつながりについての講演会。

事業成果

荒廃林を「子どもたちの環境教育の場」として活用するため、山林所有者3名より継続的に整備することに許可を得ることができた。森林ボランティア育成講習会・練習会では、里山の現状や活用方法、整備の必要性等について座学と実践を交え、理解しながら技術を学ぶことができた。技

術的に基準に達成したものは正式に「鬼森隊」として14人を認定。今後も継続的に森林整備に関わるメンバーとして活躍が見込める。秋の森観察会では、「みんなが遊べる森」のイメージを共有することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・放置されていた山林整備のために若い人が地域に足を運んでもらえ喜ばしい。(山林所有者)
- ・初心者への指導は大変神経を使うので、内容的にも詰め込み過ぎずに安全第一を心がけた。(チェーンソー講習指導者)

参加者の声

- ・秋の森を観察する会に子どもも参加。初めての森の中で戸惑っていた子どもたちが、思い思いに遊び始めたので驚いた。(30代保護者)
- ・安全な山仕事の心得も座学と実践の両方で学べ、今後の森林整備に役立てていきたい。(40代男性)



チェーンソー練習会



里山整備実践会



秋の森を観察する会



オーストリアの森セミナー

実績とりまとめ

作業内容

除伐：7本
講習会ほか：3回

参加者数

県内：82人
県外：4人
計：86人

小中学生のためのフォレスター養成講座

長野県大町市



事業概要

次世代の森づくりを託せる森好きな子どもたちを育てるために、わかりやすく楽しい切り口で、多彩な森の魅力を伝えることをめざす。主な活動として、千年の森自然学校で、県内外の子どもやその保護者を対象に、間伐といった森林整備の作業に加えて、ツリーハウスづくりやきのこ狩りとキノコ植菌、山菜採り・調理、薪割りといった森林を体感し、味わい、伐った材を活用する事業を6回行った。また地域によって竹林の拡大も問題となっているので、地元の親子を対象に竹林整備とハチク採りも1回を行い、持続可能な森林整備と活用を考える機会をつくった。

事業成果

間伐材でツリーハウスをつくったり、キノコの菌打ちや薪割りをしたり、伐った木を丸ごと使い尽くす体験を提供できた。特に都市部在住の子どもやその保護者が多く、安全に配慮しながら、都会では味わえない様々な森林体験を

楽しんだり、チャレンジする場を提供できた。様々な森林での体験を通して、間伐の意義や、キノコを植える意味、山菜の持続可能な採集の仕方や安全で美味しい調理方法など、森林の生育サイクルや物質循環、森の恵みの活用について、五感を通して学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの関心、やりたい気持ちを削がないこと、できたことはしっかりほめて、達成感が感じられるようにする。(千年の森自然学校主宰)
- ・様々な道具や調理器具を使ったり、危ない道を歩く時は、安全の注意を子どもたちにしっかり伝達する。(ボランティアリーダー)

参加者の声

- ・薪割りやキノコ植菌が楽しかった。(子ども)
- ・タケを使った、おもちゃ体験の時間がもっとあっても良かった。(30代保護者)



カラマツの間伐



間伐材で小屋づくり



立木に穴を開けてキノコ植菌



山菜の仕上げ

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.03ha
間伐面積：6ha
小屋づくり：1棟
薪割り：3回

参加者数

県内：35人
県外：150人
計：185人

名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業

岐阜県大野町



事業概要

地域住民に親しまれ、子どもたちにとって安全な森林空間の創出をめざし、雑木などが生い茂った森から、広葉樹による景観林に変える。主な活動は以下のとおり。①雑木の伐採・ツルなどの撤去、②下刈及び植樹場所の清掃、③伐採木を利用してベンチ・テーブルの製作・設置、④地域住民の見学会、⑤子どもたちといっしょに植樹会の実施。

事業成果

地元の見学会を行い、新聞にも掲載され、遠くは名古屋から散策に来ていただいている。今後も大勢の人を楽しんでいただけるよう整備に努めたい。なお、今年度に植樹した、ミツマタなどが群生となる景色を今後も楽しみに見守

っていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林整備にとどまらず、健康増進、森林環境教育、治水の面からも素晴らしい取り組みであり、今後も協力していきたい。(県会議員、町長)
- ・雑木伐採やスギ葉撤去をしたことにより、ギフチョウの幼虫の餌となるカンアオイが自生してきている。数年後にはギフチョウの復活が期待できる。

参加者の声

- ・誰もが安心して利用できる憩いの場の創出を実現してほしい。
- ・子どもの頃に触れ合った場所が復活してほしい。



支障木などの伐採



ベンチを設置



サクラ、カエデほかを植樹



植樹会参加のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：270本
 下刈面積：0.3ha
 間伐面積：0.3ha
 清掃作業：0.3ha
 ベンチ・テーブル作製：2回
 植樹会：1回
 不法投棄物処理：6t

参加者数

県内：251人
 県外：5人
 計：256人

樹種

サクラ、カエデほか

閉校してもみんなの森はみんなで守ろうプロジェクト

岐阜県恵那市



事業概要

平成26年に閉校となった旧吉田小学校の校歌にも歌われた地域のシンボル「すわがね」（鶴岡山）を守り受け継いでいくために、森林教育や自然体験活動などを中心に森林整備活動を実施した。主な活動は以下のとおり。①登山道の整備と頂上の展望確保作業、②木育・木工教育（木育ワークショップ・アソブとマナブ）、③自然体験・レクリエーション活動（ウォーキング・ツリークライミング）。

事業成果

新たな登山道整備と頂上の展望確保の実現。ウォーキングやツリークライミングなどの「すわがね」を活用したレクリエーション活動と木育教育の実施による子どもの自然体

験活動としてのフィールドの確保。今後の参加者のさらなる広がりや活動の幅の可能性を実感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の宝である「すわがね」を、若者が中心となって整備し、地道に継続的な活動を行っていることに敬意を表したい。（自治会役員）

参加者の声

- ・岐阜の山あいの「すわがね」の頂上から三河湾が見えたことに感動した。（40代女性）
- ・木育教育のみではなく、地域の歴史教育にもつなげることが素晴らしい。（小学校教員）



下刈



森林整備



木育ワークショップ



ツリークライミング

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.8ha
 除伐面積：0.4ha
 間伐面積：0.1ha
 遊歩道整備：4km
 森林教育：2回
 自然体験：3回

参加者数

県内：250人
 計：250人

子供たちと地域で守る不動の滝と牛妻の森づくり事業

静岡県静岡市



事業概要

地域の財産として地元自治会が管理している「不動の滝」周辺の水辺環境と森林の整備を行うことで、地域住民の憩いの場とする。主な活動は以下のとおり。①遊歩道と沢をはさむ比較的平坦な林地内を整理して、水辺環境へのアプローチを確保する。②整備した林内空間を「不動の滝ひろば」と名づけ、地元小学校の児童が製作したベンチを設置。

事業成果

不動の滝は、地域の景勝地である。集落から滝までの遊歩道は整備され、地元自治会により管理されている。しかし、遊歩道に隣接する不動の滝から流れる溪流は、倒木や枯れ枝などで荒れているため、子どもたちの遊び場とはなっていない。そこで遊歩道沿いで比較的平坦な水辺へ続く林地を整備して、水辺へのアプローチを確保するとともに、林内空間を広場として整備することで子どもたちの遊び場ができた。地域の交流が一層促進することが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・総合学習で、子どもたちにどうやって不動の滝の大切さや森林の重要性を理解させていこうか悩んだが、子どもたちが自分たちでプロジェクトを立ち上げ、ベンチの製作まで成し遂げたので、子どもたちの成長が感じられた。(教員5年生担任)
- ・地元小学校と交流が乏しいと思っていたが、今回、自治会役員も積極的に協力することができ、小学校と交流する良い機会となった。(自治会長)

参加者の声

- ・初めてベンチづくりをしたり、林業のことを知りました。私たちにわかるように教えてくれたので、ベンチを完成することができた。(小学5年女子)
- ・不動の滝プロジェクトにたくさん手伝ってくれてありがとうございました。ベンチづくりをされていて森林はとっても大切だとわかりました。(小学5年女子)



木製ベンチプロジェクトが始まる



ノコギリで伐採体験



伐採木をみんなで引き倒す



木製ベンチの組み立て

実績とりまとめ

作業内容

林内整理：0.1ha
 林業体験：1回
 看板設置：1回
 木製ベンチ設置：1回
 森林体験：1回

参加者数

県内：147人
 計：147人

修善寺・アカガシの森 環境共育プロジェクト

静岡県伊豆市



事業概要

健やかな里山の森林環境を未来の子どもたちに引き継ぐため、環境共育活動を通して、人も森も共に豊かに育っていく関係性の創出をめざす。主な活動は以下のとおり。①ネイチャーガイドを招き、里山の価値を子どもたちに体験的に伝える環境教育活動（森まなび活動）、②手道具でできる里山の環境改善整備活動（森づくり活動）。

事業成果

森まなび活動と称して、里山での森林環境教育のイベントを3回開催し、里山ナイトハイク、タケノコ掘り、樹木苗づくり、環境改善整備体験など普段接することのない自然体験・学習の機会を、近隣の子どもと保護者に提供できた。また、森づくり活動と称して、里山の地上部・地下部の水と空気の流れに着目した、環境改善整備活動を6回行うことができた。テーマとしているトンボビオト

プ空間が明るくなり、歩道や池や沢筋の護岸などを整えることができ、生物種の増加が見られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林に手を入れ、子どもたちが活動する場所として利用していることに感謝している。活動を主催する人たちの負担とならないよう、里山の資源を活用して収益をあげる方法も検討してもらいたい。(森林所有者)
- ・町から簡単に入れて、雑木林・竹林・人工林など多様な植生空間が広がっていて、手入れも進められている里山なので、教育の場として利用しやすい。(大学教授)

参加者の声

- ・ライトを消したときの暗がりと月光に感動。フクロウの鳴き声を初めて聞いた。(ナイトハイク参加小学生)
- ・結構な労働だった。普段誰かが手を入れていることに感謝。(森林環境改善参加大学生)



タケ伐採



歩道づくり



参加者がつくったタケのポット苗



ビオトープの池に集まる生物を観察

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.1ha
 森林環境教育：3回
 森林環境改善：6回
 改善面積：0.1ha
 歩道修繕・作設：50m
 護岸造作：25m

参加者数

県内：75人
 県外：9人
 計：84人

どんぐり交流会の山づくり その2

愛知県新城市



事業概要

平成8年度より「どんぐり交流会」を実施し、どんぐりの苗木を毎年植栽し26年が経過した。当初植栽した木も大きくなり、混み合ってきたので除間伐を実施し、健全などんぐり山をつくる。どんぐり交流会では、ボーイスカウト、ガールスカウト、みどりの少年団とが相互の交流と親睦を図る目的で毎年実施している。将来にわたり利活用できる山の整備をめざす。

事業成果

昨年実施した除間伐、階段づくりのほか、今年は植栽苗木のタケ支柱への結束を行った。コロナ禍、制限された活

動時間を効率良く実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除間伐を実施した結果、山の変化に驚いた。また、多くの参加者の努力で山づくりが進んだ。この山の利用について、考える必要がでてきた。

参加者の声

- ・身体を使っての作業で、一人ではできないことが多くの参加者によってできた。大変な作業だったが、意義ある活動を実感することができた。子どもたちは、植えたどんぐりが成長するのを楽しみにしている。



昨年植樹した苗木を支柱に結ぶ



「どんぐり山」の整備



歩道の整備



間伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：250本
 除伐面積：0.33ha
 間伐面積：0.33ha

参加者数

県内：175人
 計：175人

樹種

コナラ

あさくら里山の保全・活用事業

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を整備し、50年ほど前のにぎわいを取り戻し、地域住民の憩いの場とする。整備の過程で地域住民と子どもたちの積極的な参加を促し、子どもたちが自然の大切さや自分たちが守るという意識向上を図っていく。主な活動は以下のとおり。里山内の竹林整備、草刈整備、サクラほかを植樹、散歩道を整備しベンチなどを設置した。

事業成果

春には多くの人がサクラ花見に訪れるようになった。ま

た、近くの園児が定期的に来るようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・散歩道が整備されてきて散歩に来るのが楽しくなる。(保育士)
- ・真夏の草刈は熱中症に十分注意しなければいけない。

参加者の声

- ・安心して園外実習ができることはうれしい。
- ・坂道は登るのに大変だが、階段状になって歩きやすくなった。



子どもたちに森について説明



サクラ、サザンカほかを植樹



タケでつくった遊具



サクラ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：7本
下刈面積：1ha
イベント：2回

参加者数

県内：255人
計：255人

樹種

サクラ、サザンカ、キンカン

六栗西山ふれあいの森整備事業 その1

愛知県幸田町



事業概要

昭和中期まであった六栗西山の薪採りの森を復活させ、子どもたちに里山の魅力を伝え、地域の新旧住民が子どもたちとの憩いの場にするために、放置竹林を除去し活動拠点エリアを整備するために、小中学校、大学等と連携活動を行った。里山に残されたヤマザクラを見る会も開催し、コミュニケーションを図ることができた。

事業成果

新旧住民参加者が、至学館大学演習を受け入れ、学生との里山交流にて整備エリアの景色が改善された。豊坂小学校総合学習受け入れほか野外活動の案内などにより、多くの保護者に活動への理解を得ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・町議会の一般質問でも取り上げられたり地元企業からも評価・賛同をいただいている。今後、いただいた評価を継続するため、だれもが参加しやすいように、毎月第二土曜日の午後から活動を行うことを周知した。新たに参加する方々が増えるよう活動現場での安全管理に留意したい。

参加者の声

- ・タケに覆われていた山がきれいになり景色が良くなったことを誇りに思う。(60代男性)
- ・里山を整備することにより森が生き返るように思った。(小学4年女子)
- ・タケの伐採は初めてだった大変な作業だった。(大学4年女性)



拠点活動エリア整備



保育園児の体験活動



小学生がアジサイを植樹



大学生によるタケの伐採

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
下刈面積：1ha
除伐面積：1ha
里山広場整備：19回

参加者数

県内：400人
計：400人

樹種

アジサイ

青い鳥の谷子ども広場計画

滋賀県大津市



事業概要

近年、子どもの過ごし方の変化やコロナ禍により、自然と触れ合う機会が減少してきている。生き物と触れうことは自然を大切に心を豊かにすることにつながる。大津市比叡平地域の通称「青い鳥の谷」エリアは、比叡山と琵琶湖に近く周囲が森林に囲まれた比叡平地域は60種を超える野鳥が飛来し、貴重な爬虫類や昆虫が多く生息し自然豊かな里山を形成している。この場所を子どもたちの自由な遊びの場として、また、環境教育の場として活用できる子ども広場を整備する。

事業成果

青い鳥の谷は平成24年より当里山倶楽部が定期的に整備してきたエリアである。特に令和3年度はこのエリアを、子どもたちがより自由に安全に活動できるように、森の施設を使いやすく安全であるように改修・補強を行った。

これらの活動により、①計画どおりの散策道や森の施設

を完成することができた。②5回の里山体験活動を実施した。③定期的に小学生、園児が訪れ、子どもたちの環境教育の一助になることができた。④週末は地域内外の親子連れが多く訪問している。⑤地域の自然クラブの活動や地域外の少年団の活動の場として広く利用されている。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林の周辺で伐採や植樹などを行い適切な里山環境をつくれば、多種の動植物の生息に適した里山環境にすることができる。青い鳥の谷はそのような里山として重要な役割を果たしつつある。(元大学教授)

参加者の声

- ・森の中にたくさんのゴミがあり驚いた。日頃から森を大切にすることを養っていかねばと感じた。(70代男性)
- ・地上に落ちたどんぐりから小さな芽が伸びているのが可愛かった。(30代女性)



ビオトープ清掃



防獣ネット補修



豪雨で崩壊した散策道の補修



里山体験活動 キノコ植菌

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：40本
下刈面積：2.2ha
間伐面積：2.2ha
里山体験活動：5回
散策道整備：160m

参加者数

県内：274人
県外：42人
計：316人

樹種

ウメ、シャクナゲ、ライラック、ヤマボウシほか

子どもたちによる都市公園の森での整備事業

滋賀県大津市



事業概要

公園の森林部分で野外活動が続いている森のようちえん園児と卒園した小学生に、自分たちの活動場所をさらに知り、関心を持ってもらうための活動。同時に、幼児と小学生の活動が来園者のためになることを体験してもらう。主な活動は、滋賀県営「びわこ文化公園」内の森林・草地地帯での里山作業である。幼稚園児と小学生を対象とする本事業により、間伐してコバノミツバツツジを選択的に残しサクラを植え、来園者のためにベンチを設置する。幼稚園児と小学生が環境学習の場として、地域に貢献できる貴重な機会をつくる。

事業成果

植栽を進めると共に活動場所にシンボルツリーのサクラ2本を植えて、チョウを呼ぶフジバカマを200株植栽した。

来園者のためにベンチを設置。20年以上に及ぶ継続的活動が評価され、第33回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受けることとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・作業日には20人以上の会員が集い、多くの作業を続けてきた。今後、さらに県や指定管理者に信頼される団体になるように努めたい。(会員男性)

参加者の声

- ・木を伐る活動は、ちょっと大変だったけど面白かった。そして、木を伐った場所は見通しが良くなり安全に遊べる場所になった。(小学5年男子)
- ・子どもたちは、思いのほか真剣に作業に取り組み、頼もしく感じた。(40代保護者)



除草



間伐



ベンチを設置



自然観察会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha
 植付本数：34本
 除草面積：0.01ha
 間伐面積：0.02ha
 ベンチ設置

参加者数

県内：145人
 計：145人

樹種

シダレザクラ、エゴノキ、ミツマタ、アセビほか

遊々の森で子どもたちと行う森林再生

京都府京都市



事業概要

ナラ枯れとマツ枯れ被害地がニホンジカの食害により荒れた森林の再生を行うことである。主な活動は以下のとおり。①植樹予定箇所におけるセンサーカメラを使った野生動物の生息調査、②獣害防護柵の設置、③疎林化した箇所の植栽、④地元小学生を対象に森林環境学習。

事業成果

子どもたちは、ナラ枯れ・マツ枯れ被害地がニホンジカの食害を受けていることを学んだ。森林インストラクターによる植栽の仕方やスズメバチやヤマウルシなどの危険生物などの安全指導等を徹底し、安全な作業につなげることができた。「遊々の森」として森林環境学習のフィールドとして今後とも使用することで、森林回復状況の確認など継続的な活動としての可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林内の植樹活動は、その作業及び獣害対策の大変さとともに、植樹した苗木の成長を確認することで、森林保全活動への参加意識の向上につながる意義のある活動である。また、野生動物のフィールドサイン観察やセンサーカメラによる観察は、子ども達のみならず教員も、森の生態系を実感する良い機会になった。(小学校教員)

参加者の声

- ・10年前に植樹した木を見せてもらった時、私たちが植えた木もあんなふうに育ったらいいなと思った。(小学5年)
- ・アカマツが枯れてなくなっているのでアカマツを植えた。大きくなってほしい。(小学5年)



植樹について学習 (小学校)



小学生による植樹



アカマツ、クヌギほかを植樹



シカ防護柵の設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
植付本数：58本
植樹地調査：0.02ha
シカ防護柵設置：63m

参加者数

府内：181人
計：181人

樹種

クヌギ、コナラ、アカマツ

生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

奈良県西畑町



事業概要

農業の衰退で棚田・里山が荒廃している。棚田・里山の景観整備を第1に子どもたちの自然教育の場を地元住民とともにSDGsを念頭に実施。主な活動は以下のとおり。①休耕棚田の景観整備、②里山林の整備（除伐、枯損木処理）、③休耕棚田に果樹や山野草を植える、④里山に植樹、⑤山のようにえんの野外教室の場を提供、⑥小学生対象の棚田・里山体験会の開催など。

事業成果

昨年度から山野草の育成に努めてきた。土壌改良などもあり、花を咲かせる品種が増えて、来場者を楽しませている。

今年からシイタケのホダ木として、クヌギの苗を植え育成する。

事業をよく知る関係者の声

- ・2003年の「いこま棚田クラブ」設立以来、西畑町自治会とは友好的な関係を維持して、自治会から信頼を得ており、イベントは、クラブ会員が多数参加することで、景観の維持管理が可能となっている。

参加者の声

- ・棚田は、特に小学校の遠足（校外学習）などに好評で、安全面にも留意しているので子どもたちが安心して活動できる場所となっている。



除伐、枯損木処理



除伐、下刈



クヌギの植樹



棚田の稲刈りイベント

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
草刈面積：2ha
イベント：73回

参加者数

県内：510人
県外：1193人
計：1703人

樹種

クヌギ

大地の再生～キャンプ場の復活プロジェクト～

奈良県天理市



事業概要

持続可能な森づくりをめざす大人たちと共に、環境や資源について学び考え、一人一人が主体的に行動できる心を育む。主な活動は以下のとおり。①大地の再生プロジェクト、②自然物を活かした遊具（ツリーハウス）づくり、③夏休み自然体験活動、④果樹の植樹など。

事業成果

フィールド整備の講師の方々には実演いただきながら各ロケーションに応じた適切な整備手法を学ぶことにより、より効果的にフィールドを改善させることができた。また、子どもたちも積極的に楽しみながら整備活動に参加しており、フィールド整備の技術について次世代への継承も進んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・デイキャンプで、自分の身体と心で自然を体験体感する



草刈り



水脈整備（詰まった泥や石を除去）



小学生30人が参加したサマーキャンプ



虫めがねで観察

とともに、参加者がチームとなり活動することで得られる効果もあった。人との関わりに自信を持つきっかけとなったのではと思う。他事業においても、協力者との関わりが、子どもたちが主体的な明るい未来を描くことにつながっている。人と人、人と自然が交流が生まれる場として、森林の役割を感じている。（サステナuメンバー）

参加者の声

- ・みんなでつくったツリーハウスからの景色が最高だった。（小学4年女子）
- ・虫めがねでアリを観察したのがおもしろかった。（小学2年男子）
- ・作業を重ね、目に見える部分の変化から土中の環境を知り、自然のバランスを整えていくことの重要性を感じた。（40代女性）
- ・落ち葉やワラ、炭など自然素材が活かせる循環できることを知ることができた。（30代男性）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
下刈面積：3.5ha
自然体験：1回
ツリーハウスづくり：2回

参加者数

県内：66人
計：66人

みんなでつくるドングリの森

鳥取県鳥取市



事業概要

「森の教室」に参加した園児達が育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていく。主な活動内容は以下のとおり。「森の教室」に参加した県内の4保育園の106人が、自分たちがドングリから育てたコナラの苗木を森林公園に植樹した。森のともだち応援し隊が植樹指導した。

事業成果

自分たちが育てた苗木を植樹し、今後の成長を見守ることで森林への興味の醸成が期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・私たちを取り巻く環境は急速に変化している。この環境の変化を抑えるためにも環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植え育てる事業」として活動の輪を広げていただきたい。(森林公園指定管理責任者)

参加者の声

- ・育てた苗木を山に植えるという貴重な体験もできた。今日植えた苗木が、やがて園庭にある大きな木になると話すと、子どもたちは驚いていた。(保育園園長)



苗木贈呈式



コナラの植樹



植樹の様子



森の体操

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：106本

参加者数
県内：132人
計：132人

樹種
コナラ

海に見える丘 五十猛小プレイパークづくり

島根県大田市



事業概要

学校林のなかった小学校の隣接地に子どもたちが植物や生き物に触れあって遊べるプレイパークをつくる。主な活動は以下のとおり。①40年前の耕作放棄地に生えた灌木の除伐、マツ枯れによる枯損木の伐採処理、②学校からのアプローチ歩道および傾斜部の階段設置、③木道サーキット延長100mの設置、クライミングネットの設置、④ファミリーマートの教室で当時植えたクヌギを小学2年生になって自分で山に返す、⑤五十猛小学校島根県みーもスクール活動、いそたけ保育園、学童保育でのパークの活用。

事業成果

地元小学校・保育園・学童保育において、最寄りの森林

で遊べる空間ができたことについてとても喜んでもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の可能性を引き出していただいた。(保育園園長)
- ・子どもたちがいきいきと利用していて私も使ってみたくなった。(地元ケーブルテレビ記者)

参加者の声

- ・すてきなパークを作ってくれてありがとうございました。(小学4年生)
- ・ゴミ集めをしたら砂の下からたくさんビニールが出てきてびっくりした。(小学6年生)



クヌギの植樹



木道サーキット



シンボルツリーのモクレン



看板づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
 除伐面積：0.07ha
 森林教室：3回
 森林資源活用：1.5㎡
 歩道・階段整備：62m
 林内清掃：0.05ha

参加者数

県内：100人
 計：100人

樹種

モクレン、クヌギ

みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は岡山市の㈱ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。①この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び㈱ティシーシーによる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み本年で9年目である。備前市内4小学校5年生児童が共に森林体験（マツの植栽、シイタケ植菌、コースターづくり）、森の役目について学び交流を通じて親睦を深める予定であったがコロナの影響により植栽行事はできなかった。伊部小学校5年生より森の出前授業の要請があり授業を行った。また、伊部つながりの森では、おかやま森づくり県民基金イベントほかを開催

した。地区行事の利用もあった。

事業成果

岡山県緑化推進協会総会で中国・四国地区緑化功労賞を受賞した。

事業をよく知る関係者の声

- ・備前焼の燃料が当地では皆無となっており、県北や広島県のマツに頼っている。しかし、備前焼の団体は再生の努力が見えない。会としては植樹数は少ないが各方面に働きかけて再生努力を続けてほしい。

参加者の声

- ・今後の管理も大変と思うが継続してほしい。



シイタケ植菌



出前授業



標柱の設置



緑の少年団も参加して森林整備

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：25本
間伐面積：0.2ha
シイタケ植菌：4500駒

参加者数

県内：482人
県外：12人
計：494人

樹種

イロハモミジ、サクラ

子ども達に託せる美しい里山づくり事業

高知県高知市



事業概要

都市公園である春野総合運動公園の未整備林の竹木類の除伐と下刈を実施するとともに、伐採整備後の林内にサクラ、モミジ、アセビなどを植樹し、次世代に託せる美しい里山づくりの礎を築く。春の植樹祭には地域住民や子どもたちに参加してもらい、森を守ることの大切さを実感してもらった。

事業成果

これまで植樹したサクラやモミジの苗木の下刈を実施。また、新たな植栽地の確保をめざして竹木類の除伐や地拵えや下刈を行い植樹祭を開催した。チラシ、ブログ、SNSなどを通じて植樹祭への参加を働きかけることにより、企業、行政、地域住民などの協力も得られ、美しい里山に向けての基盤づくりにつながる有意義なイベントとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 荒廃林が明るく様変わりして感動している。植樹したことによって、10年後や20年後のサクラの名所としての里山の姿にも思いをはせることができる取り組みに感謝している。また、施設利用者からも「都市公園らしく美しい施設となってきた」との感想も寄せられるようになってきた。(高知県スポーツ振興財団理事長)

参加者の声

- ・ 幼い子どもを連れての参加に不安も抱えつつ植樹祭への参加だったが、色々とお気遣いいただき、楽しく過ごすことができた。今日植樹したサクラやモミジが健やかに育ち子どもたちの成長とも重なるようになれば、と思っています。(40代女性)



春の植樹祭



サクラ、モミジ、アセビなどを植樹



将来の花見を楽しみに



タケ細工

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.9ha
植付本数：161本
下刈面積：1.2ha
除伐面積：0.9ha

参加者数

県内：258人
計：258人

樹種

サクラ、モミジ、アセビ

もりもり体験 with 森守

大分県杵築市



事業概要

過疎化が進み、所有者も高齢のため手入れができずにいる山林で、豊かな森林環境を子どもたちとつくり、豊かな森の大切さ・必要性を感じてもらうために活動を行う。おもな内容は、月1回程度、放置林・侵入タケの整備とさまざまな体験活動を組み合わせて実施した。タケを伐って隠れ家づくりや、そのタケを容器や燃料や飾りとして活用する体験活動や海と森のつながりを感じる干潟観察会、森周辺の自然観察会、整備した森で祭りなどを行った。多くの参加者が訪れ地域のにぎわいにもつながった。

事業成果

竹林は毎月整備計画とイベントを上手く結びつけることができ、子どもたちと自然体験をしながら、整備することができた。人工林は伐採が目的だったが、太い木が多く、体

験で伐るには危険で、イベントにつなげることができなかった。次年度はスタッフの技術をあげ、他団体とも協力しながら伐採を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・する事がギチギチに詰まっておらず、子どもたちがゆっくり自然を体験できる活動だと感じた。(小学校教員)
- ・昔、近隣地域の人々で行っていた整備活動も可能であれば引き継いでもらいたい。昔のように人が集まる場所になっていったらうれしい。(地域住民)

参加者の声

- ・ひと月に1回手を入れるだけでこんなに変わるんですね。(30代母親)
- ・おれ達の森！いつも楽しい！また来る！（5歳男子）



タケの伐採



「森の赤ちゃんを育てよう」空気と水の通り道をつくる



伐ったタケ筒で炊飯



音楽や人形劇などで楽しんだ森祭り

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：0.3ha
 イベント：4回

参加者数
 県内：391人
 県外：1人
 計：392人

馬事公苑の森子どもの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

子どもたちに森林に親しんでもらうために木製遊具を整備するとともに森林整備を行った。主な活動は以下のとおり。①林内にスギ間伐材を使用したキッズハウスなどの木製遊具を製作・設置し、「馬事公苑子どもの森」と名づけ木製看板を設置した。②植栽木の保育作業及び歩道整備。③子どもたちの植樹と木工教室、整備した木製遊具で遊ぶ活動を行った。

事業成果

スギ材で木製遊具や歩道の整備をするるとともに子どもた

ちとヤマザクラほかの花木類を植樹した。また、整備した遊具等で遊び森林に親しむ活動を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童クラブでは、屋外での活動が少なく、このような機会をいただき森林のことを知ることができたことはありがたい。(児童クラブ指導者)

参加者の声

- ・子どもたちにとって森林内での活動は新鮮で、活動が終わっても、まだ遊びたいという声が多かった。(保護者)
- ・もっとこうした機会を増やしてほしい。(保護者)



ヤマザクラ、エゴノキ、クリほかを植樹



丸太遊具で遊ぶ



スギ板を使って木工



キッズハウスの製作

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：150本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.2ha
 木製遊具の製作
 木工教室

参加者数

県内：118人
 計：118人

樹種

ヤマザクラ、エゴノキ、クリ、
 マンサク、ユリノキほか

